

10. リスクマネジメント 活動計画と実践・評価と改善の課題

4月	5月	6月
(16日) ① 令和3年3月の怪我報告書より ② 令和3年3月の訓練報告 ③ 令和3年3月の訓練の振り返り ④ 今年度の課題について	(21日) ① 4月の怪我報告書より ② ④4月の訓練報告	(18日) ① 5月の怪我報告書より ② 5月の訓練報告
7月	8月	9月
(21日) ① 6月の怪我報告書より ② 6月の訓練報告 ③ ヒヤリハットアンケートについて	(20日) ① 7月の怪我報告書より ② 7月の訓練報告	(24日) ① 8月の怪我報告書より ② 8月の訓練報告
10月	11月	12月
(22日) ① 9月の怪我報告書より ② 9月の訓練報告 ③ 給食事前会議より	(19日) ① 10月の怪我報告書より ② 10月の訓練報告	(17日) ① 11月の怪我報告書より ② 11月の訓練報告
1月	2月	3月
(21日) ① 12月の怪我報告書より ② 12月の訓練報告	(18日) ① 1月の怪我報告書より ② 1月の訓練報告	(11日) ① 2月の怪我報告書より ② 2月の訓練報告

1. 年間目標

- 1) 日常の安全管理を徹底する。
- 2) 災害の備えと避難訓練を徹底する。
- 3) 事故防止マニュアルの整備を徹底し、事故防止に努める。
- 4) 危機管理を徹底する。

2. 計画の実践と評価・改善の課題

1) 日常の安全管理を徹底する。

①計画と実践

(ア) 怪我が起きた際に、現場検証及び改善を行う。

(イ) 怪我が起きた原因を、職員間で話し合い、同じ怪我が起きないように情報を共有し徹底できるようにした。

②評価と改善の課題

(ア) 怪我が起きた際には、園長、主任もしくは副主任に報告し、なぜ起きたのかをクラスで検証を行うようにした。毎月の会議の中で、前月の怪我報告書の集計を基にクラスでの対応及び保育の評価・改善を促した。

(イ) 職員間で情報共有を行うことで、昨年より怪我の減少が見られた。怪我防止の取り組みとして、クラス会議にて分析を行い、評価と課題を共有した。また、ヒヤリハットの報告、収集、分析及び対策を挙げ、職員間の意識を高められるようにした。問題点を可視化する事で、具体的に改善策を検討していく必要があった。

2) 災害の備えと避難訓練を徹底する。

①計画と実践

(ア) 訓練(地震・避難消火・水害・不審者・緊急時)を行うことで、災害や緊急時への対応方法(職員の動き、子どもの安全確保)について考えた。

(イ) 訓練の企画書を、職員掲示板に1週間前に掲示をして、周知徹底を行えるようにした。

(ウ) 訓練を計画する時に、リスクマネジメントの担当者は連続して企画者も担当することで、前回の反省を踏まえた計画を行った。

(エ) 災害時への備えとして、毎週土曜日に防災自主点検を行い、消火器の位置や避難経路の確認などを行った。

②評価と改善の課題

(ア) 各訓練のねらいを立てることによって、災害時における職員の動き、子どもの安全確保等の確認を行うことができた。その都度、評価・反省を行い、課題を次月のねらいとして立て、反省を活かした訓練を行うことができた。しかし、同じような反省・課題が続く事があった。

(イ) 職員掲示板への企画書掲示が、実施日間近になることがあった。全職員への周知徹底を行う為、掲示期限は厳守していく。

(ウ) リスクマネジメントの担当者が引継いで行っていたが、リスクマネジメントの担当者同士の引継ぎが上手くできていない時があった。訓練終了後、リスクマネジメントの担当者の引継ぎを徹底していく。

(エ) 防災自主点検を行うことで、不備を見つけ、直ちに直し、緊急時への設備を整える事ができた。

3) 事故防止マニュアルの整備を徹底する。

①計画と実践

- (ア) 毎月の怪我の集計(時間、場所、怪我の内容)を行い、会議に資料として配布をする。
また、過去の怪我データを元に、検討を行う事で、怪我の減少へ繋げて行くようにする。

②評価と改善の課題

- (ア) 毎月の怪我を細かく集計することにより、怪我が起きる人的環境・物的環境の傾向を見出すことができ、怪我対策へと繋げることができた。
各クラス、怪我の傾向を知ることで、職員が未然に防げる怪我也あった。怪我の件数は、時期や子どもの発達による変動が見られたが、行事などでも変動する時があった。引き続き、職員間の意識を高め、減少できるように徹底していく。クラス毎の怪我集計が締切日を過ぎる事が多く、全体集計の遅れへとつながった。締切日を守るよう伝えて行く必要があった。

4) 危機管理を徹底する。

①計画と実践

- (ア) リスクマネジメント会議の内容を職員会議で報告し、職員全体で共有した。
- (イ) 点検簿を基に、園内の遊具や玩具の点検等をチェックし管理を行った。
- (ウ) ヒヤリハットアンケートを基に、内容を職員会議で報告し、職員全体で共有した。

②評価と改善の課題

- (ア) 毎月の会議で、危機管理に対する話し合いや決定事項を職員に伝達、感染対策の情報共有をすることで、事前に回避できることができた。
- (イ) 毎朝、担当者が園庭の遊具点検を行ったり、異常があった場合は、その都度、リスクマネジメントの担当者に報告したりして、直ちに点検し不備を直すようにした。玩具の点検や部屋の環境は、各クラスの点検簿で点検を行うことができた。
- (ウ) 保育中に経験した又は起こりうるヒヤリハットについて、人的環境・物的環境等から要因を分析し、事故防止対策へと繋げていった。

Ⅲ 令和3年度 地域支援事業

1. 社会貢献(地域交流等)事業

《年間目標》

- 1) 地域社会との連携を図り、子どもの健やかな環境づくりを行う。
- 2) 世代を超えた人々との触れ合いの中で、豊かな心を育む。

《事業内容》

- 1) 施設慰問(緑風園、城山鹿訪問、ライフステイむなかた訪問)
- 2) 勤労感謝訪問(3, 4, 5歳児) *手作りカレンダーを渡す。
- 3) 運動会、童謡まつり、お月見コンサートにて地域の方々をご招待する。
- 4) わくわくワーク(城山中学校2年生)、宗像中学校2年生職業体験の受け入れ
- 5) 赤間地区、陵巖寺地区一斉清掃(年間各2回)に職員参加予定

新型コロナウイルス感染拡大防止の為中止

2. 子育て支援事業

1) リフレッシュタイム

《年間目標》保護者が子どもから離れ、少しでも自分の時間を持つことでリフレッシュできる時間と場所の提供をする。

《事業内容》

- ①対象: 地域の方々、定員: 10名、費用: 無料
- ②内容: クリスマスリース作り

新型コロナウイルス感染拡大防止の為中止

2) 園見学

《年間目標》園の環境や保育を見て頂くことにより、当園の保育理念や保育方針を理解して頂く。

《事業内容》

- ①対象: 0歳~就学前の乳幼児とその保護者、定員: 5組
- ②内容: にこにこハウス(乳児棟)、のびのびハウス(幼児棟)、3階わくわくホールをご案内する。
- ③日程: 新型コロナウイルス感染拡大防止の為、緊急事態宣言中の見学は中止とした。
解除後は、保護者と日程と時間を決め、お子さんの年齢のクラスを中心に短時間での見学を1家族ずつ行った。

4月	5月	6月	7月	8月	9月
6家族	2家族	10家族	3家族	10家族	8家族
10月	11月	12月	1月	2月	3月
5家族	11家族	3家族	4家族	家族	家族

3) ママとキッズのなかよしクラブ

《年間目標》季節感のある保育や、家庭では体験できない保育を親子で楽しむ。

《事業内容》

- ①対象：0歳～就学前の乳幼児とその保護者、定員：15組、費用：無料
- ②内容：うんどうかいごっこ、おまつりごっこ、キャンプごっこ

新型コロナウイルス感染拡大防止の為中止

4) おひさまランチ

《年間目標》食べることの楽しさを知り、旬の食材や行事食を味わう。

《事業内容》

- ①対象：0歳～就学前の乳幼児とその保護者、定員：10組、費用：無料
- ②内容：給食メニュー、たなばたランチ、ハロウィンランチ

新型コロナウイルス感染拡大防止の為中止

5) おやつをたべよう

《年間目標》

- ①手作りおやつを親子で味わう。

《事業内容》

- ①対象：0歳～就学前の乳幼児とその保護者、定員：10組、費用：無料

新型コロナウイルス感染拡大防止の為中止

6) 個別カウンセリング

《年間目標》

- ①子育ての悩みや不安を解決する。

《事業内容》

- ①対象：地域の方々・赤間保育園の保護者 *託児あり、費用：無料
- ②日程：8月7日(土)

《計画・実践》

- ①園児の保護者6名がカウンセリングを受けた。

《評価・改善》

- ①「もっと、海塚先生と話がしたい」「話を聞いていただいて、気持ち楽になった」という感想があった。

- ②今後も、保護者や地域の方が子育てについての不安や悩みを解決のできるように、個別カウンセリングを継続して行っていく。

IV 令和3年度 障がい児保育事業

*発達コーディネーター職員を配置し、宗像市発達支援センターと連携を継続している。

*療育手帳について

療育手帳はいくつかの検査を受け、その結果を統合して決定される。
知能指数が指標対象になる。

*ランクについて A1・A2・A3（重度性は数字が少ない方が重度）

B1・B2

*ランクのA・Bの該当者については「保育所障がい児保育事業補助金」を申請することができる。

1. 発達コーディネーター 活動計画と実践・評価と改善の課題

《発達コーディネーター会議内容》

4月	5月	6月
(16) 1. 各クラスより 2. 担当より	(21) 1. 各クラスより 2. 担当より ①巡回相談について	(18) 1. 各クラスより 2. 担当より ①巡回相談について ②本の紹介
7月	8月	9月
(21) 1. 各クラスより 2. 担当より	(20) 1. 各クラスより 2. 担当より ①巡回相談について ②個別カウンセリング	(24) 1. 各クラスより 2. 担当より
10月	11月	12月
(22) 1. 各クラスより 2. 担当より	(19) 1. 各クラスより 2. 担当より	(17) 1. 各クラスより 2. 担当より
1月	2月	3月
(21) 1. 各クラスより 2. 担当より	(18) 1. 各クラスより 2. 担当より	(11) 1. 各クラスより 2. 担当より

1. 年間目標

- 1) 各専門機関との連携を図る。
- 2) 園内での情報交換や情報の集約などを行い、職員間の意思統一に努める。

2. 日常生活の計画・実践と評価・改善の課題

- 1) 各専門機関との連携を図る。

①計画と実践

- (ア) 年2回(5月、9月)発達支援センターの巡回相談が行われた。
- (イ) 保護者の意向で8名が発達検査を受けた。
- (ウ) 市主催の年中健診が10月に行われた。
- (エ) 配慮を必要として挙げている子どもたちの保護者へ保育者から日常の様子を伝える中で、就学相談について紹介したり、保護者からの相談により、機関へ繋げるようにしたりした。

②評価と改善の課題

- (ア) 発達支援センターの巡回相談を通して、配慮が必要な子に対しての情報交換や専門機関との連携を取ることができた。今後も、引き続き集団生活での関わり方や活動への促し方、保護者への対応など具体的なアドバイスを頂きながら保育を進める。
- (イ) 発達検査の結果を基に本児の苦手な分野や得意な分野をより細かく把握し、個別に合った対応を行う事ができた。
- (ウ) 健診後に担任とセンターの方で個別配慮が必要な子どもについての話をを行った。センターの方からアドバイスを頂く事により、園内での対応に繋げることができた。また、関係機関に繋げる事もできた。
- (エ) 就学相談を行う事で、就学後の生活の仕方が詳しく分かり、安心される保護者が多かった。

- 2) 園内での情報交換や情報の集約などを行い、職員間の意思統一に努める。

①計画と実践

- (ア) 各クラスで個別に配慮が必要な子どもについての記録を作成し、その子どもの姿に基づいた月ごとの目標を決め、個別の対応を行った。
- (イ) 毎月「コーディネーター会議」を実施し、その子どもたちの集団生活での様子や対応についての情報交換を職員間で行ない、毎月の職員会議で全職員に伝え、意思統一を図った。また、他に配慮の必要な子どもについての情報共有も行き、職員全体で見守る対応を確認した。

②評価と改善の課題

- (ア) 毎日の記録から、その子どもの成長や課題を確認する事ができた。また、コーディネーターからも担任に対してアドバイスを行うことで子どもたちに合わせた対応を行う事ができた。引き続き、個別配慮が必要な子どもの記録を通して、成長や課題を担任と確認し合いながら配慮を進める。
- (イ) 「コーディネーター会議」を行うことで、子どもたちを見る視点や対応を職員間で統一する事ができた。また、クラス担任だけでなく全職員が子どもたちの様子から気になる行動に気づき、様子を観察したりクラス会議やコーディネーター会議で報告したりする事で発達支援センター巡回時に、相談へと繋げることができた。引き続き、対応の統一を図り、職員間に温度差がないようにする。

V 令和3年度 保育士派遣事業

1. 保育士派遣保育計画

年間保育目標

- 1) 親子での親睦を深め、遊びを楽しもう。
- 2) 様々な親子と関わるきっかけを作ろう。

《事業内容》 南郷会館 親子教室(年4回) 13:00~14:30 2Fホール
担当保育士: 赤間保育園(2名) ・ 第二赤間保育園(2名)

※新型コロナウイルス感染拡大防止の為、令和3年度も中止

VII 令和3年度 職員研修

1. 園内公開保育 活動計画と実践・評価と改善の課題

4月	5月	6月
7月	8月	9月
(13) つき組 (5歳児) (16) さくらんぼ組 (0歳児) (20) さくらんぼ組 (1歳児) (26) そら組 (4歳児)	(11) あんず組 (2歳児) (25) はな組 (3歳児) (31) にじ組 (4歳児)	(3) さくらんぼ組 (0歳児) (6) さくらんぼ組 (1歳児) (10) さくらんぼ組 (1歳児) (13) もも組 (2歳児)
10月	11月	12月
	(30) さくらんぼ組 (0歳児)	(2) ゆき組 (3歳児) (7) さくらんぼ組 (1歳児) (10) もも組 (2歳児) (13) さくらんぼ組 (1歳児) (14) さくらんぼ組 (0歳児)
1月	2月	3月

(1) 各園内公開保育後の協議会、及びアンケートを通しての評価と改善の課題

【1】つき組(5歳児)「新聞紙遊び どのくらい長くなるかな?」 実施日:令和3年7月13日(火) (参加者:園長、副園長、教育アドバイザー、主任2名、保育者7名)

<ねらい>

- 1) 自分の意見を言葉で伝えたり、相手の意見を聞いたりしながら、筒状の新聞紙を長くつなげる方法を考える。
- 2) 友だちと協力して新聞紙遊びを楽しむ。

<評価と課題>

- 1) 自分の意見を言葉で伝えたり、相手の意見を聞いたりしながら、筒状の新聞紙を長くつなげる方法を考える。
 - ・長くつなげる形を作るのに、友だち同士で教えたり話し合ったりして、自分の意見を言葉で伝え合っていた。
 - ・グループごとに並べ、みんなで長さを比べた。今後も、子どもたちの「主体性」をどうやって育むか、保育の質の向上を目指していく。
- 2) 友だちと協力して新聞紙遊びを楽しむ。
 - ・3人グループで話しながら、だんだんと新聞紙を長くしていく事を楽しむ様子が見られた。

【2】さくらんぼ組(0歳児)「新聞紙で遊ぼう」 実施日:令和3年7月16日(金)

(参加者:園長、副園長、教育アドバイザー、主任2名、保育者5名)

<ねらい>

- 1) 保育者や友だちと、新聞紙遊びを楽しむ。

<評価と課題>

- 1) 保育者や友だちと、新聞紙遊びを楽しむ。
 - ・声を掛けると子どもたちから新聞紙を取りに来てビリビリ破ったり丸めたりする姿があった。
 - ・子どもたちの興味を引くような働きかけを行った。子どもたちも新聞紙に興味をもって遊ぶ姿が見られた。
 - ・遊びを展開する際は、子どもたちを一度注目させてから動作を始めるなど、0歳児なりのめりはりをつけることを考える。

【3】さくらんぼ組(1歳児)「はじめてのいろあそび」 実施日:令和3年7月20日(火)

(参加者:園長、副園長、教育アドバイザー、主任2名、保育者6名)

<ねらい>

- 1) 色の変化と小麦粉粘土の感触を楽しむ。

<評価と課題>

- 1) 色の変化と小麦粉粘土の感触を楽しむ。
 - ・袋が破れないように透明シートを入れたが、絵の具が混ざりにくく、色の変化が分かりにくかった。驚きや感動の時間を味わえるように、事前にやってみるなどして計画を立てる。
 - ・小麦粉粘土は、少し柔らかくなりすぎたが、袋に入れると子どもたちは感触を楽しむことができた。
 - ・色の変化から小麦粉に行く時にひと声かけるなど、活動のめりはりをつけるようにする。

【4】そら組(4歳児)「好きなものを作ってみよう」 実施日:令和3年7月26日(月)

(参加者:園長、副園長、教育アドバイザー、主任2名、保育者4名)

<ねらい>

- 1) 廃材を利用して、想像を膨らませ、廃材で自分の好きなものを作ることを楽しむ。

<評価と課題>

- 1) 廃材を利用して、想像を膨らませ、廃材で自分の好きなものを作ることを楽しむ。
 - ・最初は、物を持ってきただけで何を作るか迷っている姿もあったが、友だちの様子を見てヒントをもらい、自分なりに模索しながら作ることを楽しんでいった。
 - ・テープが自分で切れない子が多かった。事前にある程度切っておくとよかった。全部を子どもたちに任せるのではなく、ある程度のところは準備などで整えておく必要がある。
 - ・配慮が必要な子どもも、落ち着いて遊ぶ姿が見られた。
 - ・友だちに何を作ったのかを発表する時、子どもたちが自分で椅子を前に向いていた。聞く姿勢が身についていた。
 - ・保育者の声がよく通り、言っていることが子どもたちによく聞こえていた。“よく伝わる声”というのは大事なことである。

【5】あんず組(2歳児)「お店屋さんごっこ」 実施日:令和3年8月11日(水)

(参加者:園長、副園長、教育アドバイザー、主任2名、保育者5名)

<ねらい>

- 1) 保育者や友だちとやり取りをしながら、ごっこ遊びを楽しむ。
- 2) 友だちと簡単な言葉のやり取りを楽しむ。

<評価と課題>

- 1) 保育者や友だちとやり取りをしながら、ごっこ遊びを楽しむ。
 - ・多くの子どもたちは楽しめていたが、中には恥ずかしがる子どもの姿もあり、全員が楽しめていたかという点では今回のねらいは達成できなかった。
 - ・お店屋さんごっこを繰り返しているからこそ活動の流れが分かり、「お店屋さん」と「お客さん」に分かれてそれぞれで楽しめていた。
 - ・指導案の配慮事項に“子どもたちの意見や、やり取りを尊重し”とあったが、子どもの今の気持ちに寄り添った保育をされ、自然体で、園の理念に添った温かい保育だった。
- 2) 友だちと簡単な言葉のやりとりを楽しむ。
 - ・お店屋さんごっこ自体は、いろいろなやりとりをしながら楽しめていたので、よかった。今日だけでなく、今後の保育でも取り入れていく。

【6】はな組（3歳児）「はなリンピック」 実施日：令和3年8月25日（水）

（参加者：園長、副園長、教育アドバイザー、主任2名、保育者4名）

<ねらい>

- 1) 友だちと協力しながら一つの事をやり遂げようとする。
- 2) 身体を動かし遊ぶ中で、自由に感情を表現する。

<評価と課題>

- 1) 友だちと協力しながら一つの事をやり遂げようとする。
 - ・以前から「はなリンピック」をやると言っていたので、子どもたちは楽しみにしていた。
 - ・オセロや団体競技など、チームとして勝ったり負けたりすることを取り入れて行われた。また、赤と黄色のリストバンドで色分けをはっきりして、子どもたちも楽しんでいた。
- 2) 身体を動かし遊ぶ中で、自由に感情を表現する。
 - ・子どもたちから「楽しかった。」という言葉が聞けたので、ねらいは達成できた。“悔しい”や“嬉しい”などの気持ちも自由に出していた。保育者自身も楽しんで行った。
 - ・オセロゲームは、以前にも行ったことがあるため、楽しくなりすぎてトラブルになってしまった。しっかり子どもたちに目を向けるべきだった。
 - ・子どもたちに説明する時に言葉で言うだけでなく、保育者自身も実践する。また、片付けも一緒に正しい、常に子どもたちと共に行動する

【7】にじ組（4歳児）「わらべうた遊び」 実施日：令和3年8月31日（火）

（参加者：園長、副園長、教育アドバイザー、主任2名、保育者3名）

<ねらい>

- 1) うたに合わせて体を動かすことを楽しむ。
- 2) 日本の昔の遊びに触れる。

<評価と課題>

- 1) うたに合わせて体を動かすことを楽しむ。
 - ・少人数で4月から過ごす中で、普段は人前で意思表示をすることが難しい子どももいるが、声を出してみんなが楽しんでいた。

2) 日本の昔の遊びに触れる。

- ・予定通りに進まないところもあったが、子どもたちがやりたいと言っていたわらべうたを取り入れて、楽しむことができた。
- ・輪の中に入らなくても子どもたちは回りで他の遊びをすることもなく保育者と子どもたちが遊んでいる様子を見て、自分が入りたくなったら自然に入っていた。子どもたち一人ひとりが楽しめていた。
- ・少人数の良さが伝わってきた。自分の好きなわらべうたで、友だち同士の絆ができてきている感じだった。わらべうたの本質的な楽しみ方が分かった。
- ・今まで行ってきた中で子どもたちがわらべうたを好きになり、主体性を育むことを意識して取り組んできた。“わらべうた”は、昔々の子どもたちの、大人を介さずに作られた遊びの中で、自然に約束事ができる大切なものだと感じた。
- ・“わらべうた”の醍醐味をみんなに伝え、子どもたちにも好きになってもらいたい。

【8】さくらんぼ組（0歳児）「食いしんぼう動物」 実施日：令和3年9月3日（金）

（参加者：理事長、園長、副園長、教育アドバイザー、主任2名、保育者4名）

<ねらい>

- 1) 保育者や友だちとのやりとりを楽しむ。

<評価と課題>

- 1) 保育者や友だちとのやりとりを楽しむ。
 - ・子どもたちは、かごの中に野菜を入れて楽しんでいた。
 - ・途中から、子どもたちが違うところに行ってしまうたり、流れが止まってしまうたりする時間があったので、声掛けや野菜を畑に出すタイミングを早くする。
 - ・ストーリーを考えて、保育を展開する。
 - ・次の準備などで子どもたちが待つ時間にも飽きさせない工夫が必要である。
 - ・手作りおもちゃを準備して、子どもたちに素晴らしい感動を与えてくれた。今後も、いろいろな手作りおもちゃを作って、子どもたちに楽しさを伝えてほしい。

【9】さくらんぼ組（1歳児）「色水遊び」 実施日：令和3年9月6日（月）

（参加者：園長、副園長、教育アドバイザー、主任2名、保育者4名）

<ねらい>

- 1) 友だちや保育者と一緒に、感触遊びを楽しむ。

<評価と課題>

- 1) 友だちや保育者と一緒に、感触遊びを楽しむ。
 - ・子どもたちは、色水遊びでビニール袋を触って色がだんだん濃くなっていく様子を見ながら、気持ちよさそうに遊びを楽しんでいた。
 - ・袋を一人にひとつずつ用意し、お互いに取り合う事もなく、安全に遊ぶ姿があった。
 - ・ウォーターベッドも3つ用意したので、何人も重ならず遊ぶことができた。
 - ・事前の準備は大変だったが、手間をかければそれだけ子どもたちは十分に楽しむことができる事が分かった。
 - ・花紙の入ったビニール袋を渡す時に、子どもたちに色を選ばせていた。自分の好きな色を選ぶというのは、自主性を育てる上では大切なところである。

- ・お集まりの時の集め方が、こちらに注意を向ける時の子どもたちへの声掛けの仕方がまだよくできていないため、サポートの保育者と声を掛け合いながら全体を見て保育を進めていく。
- ・子どもたちがはしゃぎ過ぎて危ない時、サポートの保育者も「危ないよ。」と言ってもよかった。声を出し合うことや、どうサポートするか、リーダーはどうサポートしてほしいかという事を伝えて安全に楽しく遊べるように考えなくてはいけない。

- ・磁石入りのキャップ同士がつくことや、キャップがボール入れの缶につくことに気付き、遊んでいる姿が見られた。
- ・キャップ落としは、キャップと入れ物に色のついたテープをつけていたが、色を合わせることは難しかった。

【10】さくらんぼ組（1歳児）「指先遊び」 実施日：令和3年9月10日（金）

（参加者：園長、副園長、教育アドバイザー、主任2名、保育者3名）

<ねらい>

- 1) 指先を使い、保育者や友だちと遊ぶことを楽しむ。

<評価と課題>

- 1) 指先を使い、保育者や友だちと遊ぶことを楽しむ。
- ・手作りのおもちゃが、一人にひとつずつあり、それぞれがそれぞれの場面で遊びを楽しんでいた。
 - ・活動に興味を示さず参加できない子がいたので、ひとつではなく興味を持てるようなものを複数準備する。
 - ・片付けの時に、なかなか手を離さず持っていたがる子がいたので、違う声掛けや片付けたくなるかごなどを準備する。
 - ・全体を見る人が誰なのか、リーダーである保育者は活動を展開できているかを常に考えながら保育を行う。また、保育者同士でお互いに声を掛けて、確認し合う

【11】もも組（2歳児）「お祭りごっこ」 実施日：令和3年9月13日（月）

（参加者：園長、副園長、教育アドバイザー、主任2名、保育者4名）

<ねらい>

- 1) 保育者や友だちと楽しみながら、お祭り気分を味わう。

<評価と課題>

- 1) 保育者や友だちと楽しみながら、お祭り気分を味わう。
- ・自分で好きな遊びを選んで、いろいろな場所に行って楽しむ姿があった。
 - ・保育者自身が楽しんでいた。
 - ・たくさん待つ時間があり飽きる子がいたので、もっと工夫が必要だった。

【12】さくらんぼ組（0歳児）「指先を使って遊ぼう」 実施日：令和3年11月30日（火）

（参加者：園長、副園長、教育アドバイザー、主任2名、保育者4名）

<ねらい>

- 1) 保育者や友だちと、指先を使って遊ぶ事を楽しむ。

<評価と課題>

- 1) 保育者や友だちと、指先を使って遊ぶ事を楽しむ。
- ・ボール落としは初めてする遊びだったので、キャップ落としより選ぶ子どもが多かったが、子どもたちは好きな遊びを選び、楽しんで遊ぶことができた。

【13】ゆき組（3歳児）「ミニクリスマスツリーを作ろう」 実施日：令和3年12月3日（金）

（参加者：園長、副園長、教育アドバイザー、主任2名、保育者5名）

<ねらい>

- 1) いろいろな素材に触れ、自分のイメージを表現する。
2) 友だちの表現に触れ、様々な表現の仕方を知る。

<評価と課題>

- 1) いろいろな素材に触れ、自分のイメージを表現する。
- ・今までまつぼっくりに触れることはあっても、それを使って何かを作ることはしなかったので、今回ツリーを作ることができて良かった。
 - ・まつぼっくりにビーズやストローやスパンコールなどたくさんの素材を準備されていて子どもたちの目も輝いていた。一つ一つが容器に入れられていて、選ぶのにも見やすかったし、“どれをいくつでも”という選ぶ喜びも感じられた。
- 2) 友だちの表現に触れ、様々な表現の仕方を知る。
- ・友だち同士で見ながら同じような飾りを使ってみたり、パーツを取ってあげたりする姿があり、楽しんでいる様子が見られた。
 - ・“作品をみんなに見せる”というところでは、作ったことに満足して、話を聞くことがあまりできていなかった。

【14】さくらんぼ組（1歳児）「小麦粉粘土で遊ぼう」 実施日：令和3年12月7日（火）

（参加者：園長、副園長、教育アドバイザー、主任2名、保育者3名）

<ねらい>

- 1) 粘土の感触を楽しむ。

<評価と課題>

- 1) 粘土の感触を楽しむ。
- ・小麦粉粘土の水を少なめにしたので感触も程よく、子どもたちも楽しんでいた。また、保育者自身も時間を忘れて楽しむことができた。
 - ・ねらいは「粘土の感触を楽しむ」のみであったが、保育者との関わりも楽しんでいた。ドーナツ型にしてもらったり、千切れても嬉しそうに保育者に見せたりしていた。ねらいに“人間関係”を入れても良かった。また保育者とのやり取りもあったが、子ども同士のやり取りも見られて良かった。

【15】もも組（2歳児）「カラフルバスケット」 実施日：令和3年12月10日（金）

（参加者：園長、副園長、教育アドバイザー、主任2名、保育者3名）

<ねらい>

- 1) カラフルバスケットを通して、簡単なルールが分かり、保育者や友だちと遊ぶ楽しさを知る。

<評価と課題>

- カラフルバスケットを通して、簡単なルールが分かり、保育者や友だちと遊ぶ楽しさを知る。
 - 人数が少なかったり泣いたりする子もいたが、子どもたちが終わった後に、「楽しかった」「また、やりたい」と言っていた。
 - 2歳児は、ルールのある遊びを何回かしたら、ルールを理解できる時期ではないので、今後も続けていく。
 - 声掛けの仕方が、子どもに伝わりにくいものだったと感じたので、改善していきたい。
 - 子どもを注目させるのが難しい為、もっとできるようにしていきたい。
 - 時間配分が難しく、“何でもバスケット”を取り入れるのが遅かった。時間配分も考える。
 - 保育の準備を丁寧にしていたからこそ、子どもたちも参加ができていた。それに参加していなくても、慣れてきて参加する事もできるので、今後も子どもに寄り添いながら、保育を進めていく。

【16】さくらんぼ組（1歳児）「クリスマスツリーの飾りを作ろう」 実施日：令和3年12月19日（月）
（参加者：園長、副園長、教育アドバイザー、主任2名、保育者3名）

<ねらい>

- 絵の具やシールを使って、クリスマスツリーの飾りを作ることを楽しむ。

<評価と課題>

- 絵の具やシールを使って、クリスマスツリーの飾りを作ることを楽しむ。
 - シール貼りや絵の具塗りを交互に行った。子どもたちは、それぞれの活動を集中して楽しむ姿が見られた。
 - 絵の具を使用する為、テーブルに新聞紙を敷いたが、子どもたちが席に着いた途端に新聞紙を破り始めた。想定していなかった事が起きた時に、どのように対応するか、今後考えていく。
 - 完成した作品を置く時に、他のグループが遊ぶスペースを考え、事前の確認をする。

【17】さくらんぼ組（0歳児）「はらべこあおむしに会いにいこう」 実施日：令和3年12月14日（火）
（参加者：園長、副園長、教育アドバイザー、主任2名、保育者3名）

<ねらい>

- 保育者や友だちと一緒に紐通し、マグネット貼りを通して指先を使い遊ぶことを楽しむ。

<評価と課題>

- 保育者や友だちと一緒に紐通し、マグネット貼りを通して指先を使い遊ぶことを楽しむ。
 - 紐通しもマグネット貼しも、数がたくさんあり、子どもたちが集中して落ち着いて遊んでいた。
 - 手作りのおもちゃが、優しく温かい。毎日少しずつ子どものことを考えながら手作りにしたことは素晴らしい。
 - 遊びについての説明と終わり方が、子どもには理解しづらいと思った。今後は、子どもの理解できる言葉を選び伝えていくようにする。

2. 園内研修 活動計画と実践・評価と改善の課題

【1】人権研修

(1) 年間目標

- 赤間保育園職員の人権意識の向上を図る。

(2) 計画と実践・評価と改善の課題

- 赤間保育園職員の人権意識の向上を図る。

①計画と実践

(ア) 人権意識の向上を図るために、継続的に研修を実施した。

6月・・・「人権擁護のためのセルフチェックシート」

ねらい・・・子どもを尊重することや子どもの人権擁護について意識を高め、自らの保育を振り返る。

12月・・・「虐待から子どもを守る～児童虐待における保育園の役割～」

ねらい・・・虐待リスクのチェックリストを活用して、虐待の発生予防、早期発見に努め、児童虐待における保育園としての役割を再度認識する。

3月・・・「人権に配慮した子どもへの関わり方」

ねらい・・・子ども同士で、また保育者から子どもへの対応で不適切な言動があった時、どう対応するか考える。」

(イ) 一人ひとりが研修に参加できるように、参加体験型の研修を行った。

②評価と改善の課題

(ア) 6月の人権研修では、全国保育士会が作成したセルフチェックリストを使用して実施した。人権擁護の視点から、『良くない』と考えられるその行為がなぜ良くないのか、自らが意識をせずに「子どもを置き去りにした保育」や「保育者の都合で進める保育」を行っていないかなど、保育者一人ひとりが自らの保育を振り返り、戒めることができた。

12月では、児童虐待における保育園の役割について研修をした。まず初めにDVD「あたたかい眼差しを」の視聴をし、次に虐待における保育園の役割について、①虐待の予防②虐待の早期発見③虐待が発生している家庭への援助④虐待対応の流れについて、認識を深めることができた。

3月では、人権に配慮した子どもへの関わり方で、事例研修を行った。①子ども同士の会話の中で不適切な言動があったとき②他の保育士が子どもに不適切な関わりをしたとき、それぞれ自分ならどう行動するかグループで話し合いをした。②の事例については、どうすべきかは理解できているが、実際に正しい行動を起こせるかどうか課題が残った。

(イ) 6月と12月の研修では、講義型の研修になったが、3月では、一人ひとりがグループ内で積極的に発言できていた。これからも一人ひとりが自分の考えを発言できる形の研修を行っていきたい。

(ウ) 今年度は、日程調整がうまくいかずに、研修が3回しかできなかった。次年度は、研修テーマに職員からのニーズも取り上げて、研修の機会を増やしていきたい。

【2】絵本・ピアノ研修

4月	5月	6月
7月	8月	9月
10月	11月	12月
1月	2月	3月

(1) 年間目標

- 1) 保育者の資質の向上を図る。

(2) 計画と実践・評価改善の課題

- 1) 保育者の資質の向上を図る。

①計画と実践

(ア)それぞれ専門の先生をお迎えし、研修の希望者を募り、絵本研修は単発（13名）で、ピアノ研修は5回シリーズ（8名）で行った。
 [絵本] “絵本の読み聞かせが子どもに与える影響について” “絵本の必要性” “絵本の力” などについて、以上児や未満児向けの絵本を実際に読み聞かせをしていただきながら学んだ。
 [ピアノ] 希望の動機として “苦手意識を克服し、子どもたちと楽しく歌えるようになりたい。” という理由が多かった。課題曲「おはようの歌」「おかえりの歌」と、それぞれの弾きたい曲を練習した。

②評価と改善の課題

(ア) [絵本] 乳幼児期の絵本の大切さについて学ぶとともに、子どもたちの成長に合わせた絵本を選ぶことで、言葉の獲得やコミュニケーション能力を高め、イメージ（想像力）を高める効果があることを再認識した。今後も、子どもたちがより多くの絵本に出会い、良い刺激を与えることができるよう、また保育者自身も絵本を読むことを楽しみ、絵本の世界に浸れるような環境づくりを行っていく。
 [ピアノ] 講師の先生に、今まで弾いていた時の良くない癖を直していただき、スムーズに弾けるようになった。また、保育中に子どもと一緒に歌えるようになった。今後も教えていただいた練習方法をもとに、様々な曲に挑戦したい。

3. 福岡県保育協会・その他関係の活動計画と実践・評価と改善の課題

4月	5月	6月
7月	8月	9月
10月	11月	12月
1月	2月	3月

(1) 年間目標

- 1) 保育者の資質の向上を図る。

(2) 計画と実践・評価改善の課題

- 1) 保育者の資質の向上を図る。

①計画と実践

(ア)園長・副園長・主任で研修内容を確認し、より専門性を磨くために研修に参加した。

②評価と改善の課題

(ア)今年度は、リモートでの研修に多くの職員が参加できた。保育園の役割を職員が理解し、専門家としての資質を向上させる機会となった。次年度もそれぞれの役割の中で自己研鑽を重ね、専門性を高めていくようにしたい。

4. 宗像・福津地区保育協会の活動計画と実践・評価と改善の課題

(1) 年間目標

1) 保育者の資質の向上をはかる。

(2) 計画と実践・評価と改善の課題

1) 保育者の資質の向上をはかる。

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、研修会は行われなかった。

5. 行政主催の活動計画と実践・評価と改善の課題

4月	5月	6月 (30)宗像市保幼認定子ども園小義務教育学校教員等研修会
7月 (27)保育所保育士・幼稚園・認定こども園教員等加配職員研修会 (28)発達コーディネーター研修会	8月 (2)発達支援連絡会(リモート) (19)発達支援委員会オンライン講座	9月 (2)日本保育保健協議会発達支援委員会(リモート) (9)特定給食施設研修会(リモート) (13)発達支援に関する研修会(リモート) (21)日本栄養士会福祉スキルアップ研修会(リモート)
10月 (11・12)第一種・第二種衛生管理者免許試験準備講習会	11月 (18)宗像市子ども関係施設職員研修会	12月 (6)公正採用選考人権啓発推進員研修 (8)保幼認小義務教育学校教員等研修会 (15)宗像市子ども関係施設職員研修会
1月	2月	3月

(1) 年間目標

1) 保育者の資質の向上をはかる。

(2) 計画と実践・評価と改善の課題

1) 保育者の資質の向上をはかる。

①計画と実践

(ア) 行政と連携を持ち、より良い子どもの育ちを知るための研修に参加し、共通理解を図った。

②評価と改善の課題

(ア) それぞれの役割の中で自己研鑽を重ね、今後も専門性を高めて行く。